

我孫子市
環境レンジャー通信

たまっけ

（発行）
我孫子市環境レンジャー
（連絡先）
我孫子市手賀沼課
04-7185-1484（直通）

「たまっけ」とは1960（昭和35）年頃まで手賀沼でもたくさんすんでいたカラスガイのことで、今はほとんど見られません。環境レンジャーは、我孫子の自然環境を市民に伝え、市民と一緒に考え、守り育ててゆくために結成されました。みなさん、一緒に美しい我孫子を守り育てましょう。

《 特集 》

手賀沼周辺には何種類の野鳥がいるの？

（環境レンジャー 間野 吉幸）

1. 野鳥が住みよい手賀沼周辺の環境

我孫子市は手賀沼と利根川に挟まれ、水辺→農地→林→台地という環境が連続的につながっているエコトーン（移行帯）と呼ばれる環境にあります。多様な環境にあるため手賀沼周辺には色々な野鳥が訪れます。

2. 手賀沼周辺に訪れた野鳥

2.1 手賀沼周辺で観察された野鳥の種数

手賀沼周辺（我孫子市・柏市）にはどの位の種類の野鳥が訪れるのでしょうか？

我孫子野鳥を守る会によると2011年から2020年の10年間で観察された野鳥は47科187種であったと発表されています。

その内水鳥は80種（43%）、陸の鳥は107種（57%）でした。

毎年平均約131種の野鳥が見られています。手賀沼周辺で毎年観察された種数は91種で9年の11種を含めると102種になります。この地域では毎年約100種の野鳥が観察されましたが、観察記録が2年以下の種が42種（22.5%）ありました。その内、2010年以前に報告されていない種が12種です。その種名は次の通りです。

1)シジュカラガン、2)コグンカンドリ、3)ウミウ、4)アカガシラサギ、5)アネハヅル、6)オバシギ、7)ハチクマ、8)ブッポウソウ、9)亜種リュウキュウサンショウクイ、10)カラフトムシクイ、11)オガワコマドリ、12)オジロビタキで、これらの鳥は、渡りの時期、台風の後などで観察されています。

表 手賀沼周辺で観察された野鳥の種数とその割合

	10年間	9年間	8年間	7年間	6年間	5年間	4年間	3年間	2年間	1年間	計
種数	91	11	14	6	1	5	9	8	19	23	187
%	48.7	5.9	7.5	3.2	0.5	2.7	4.8	4.3	10.2	12.3	100

出典：手賀沼の鳥Ⅳ（我孫子野鳥を守る会）

2.2 手賀沼周辺では秋から春にかけて野鳥の種類が多い

手賀沼周辺では秋から春にかけて多くの種が観察されています。一方夏の6月から8月は大幅に減少しています。

具体的に見ますと9月から4月の平均種数114種に対し、6月から8月は81種で約3割近く減少しています。この傾向は水鳥、陸の鳥とも同じ傾向にあります（図1）。

特に野鳥の種数は春（4月）と秋（10月）に多く現れます（図2）。これは野鳥の渡りの時期と重なるためと思われます。春は冬鳥が北に移動する時に、南から夏鳥がやってきます。秋は夏鳥が南に移動する時に北から冬鳥がやってきます。手賀沼周辺では丁度4月と10月がその時期のピークに当たります。

図1 手賀沼周辺の野鳥期間別平均種数(2011年-2020年)

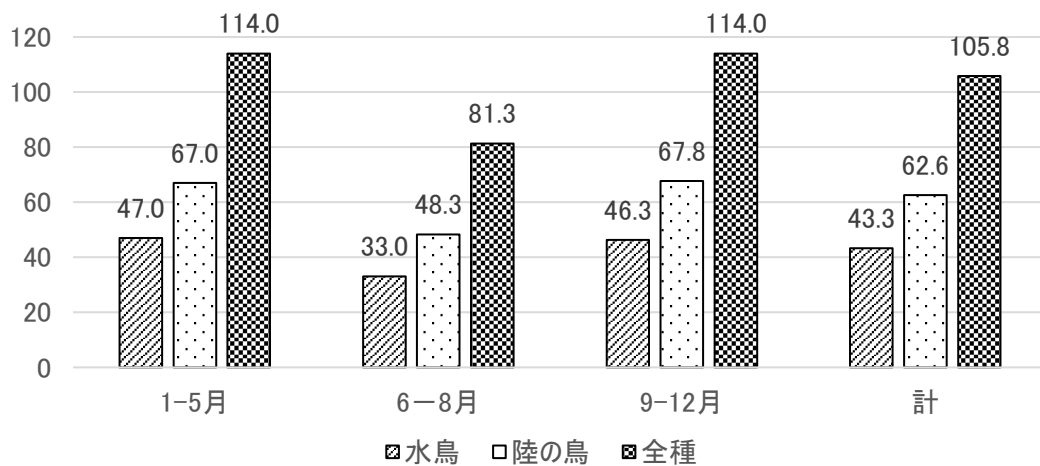
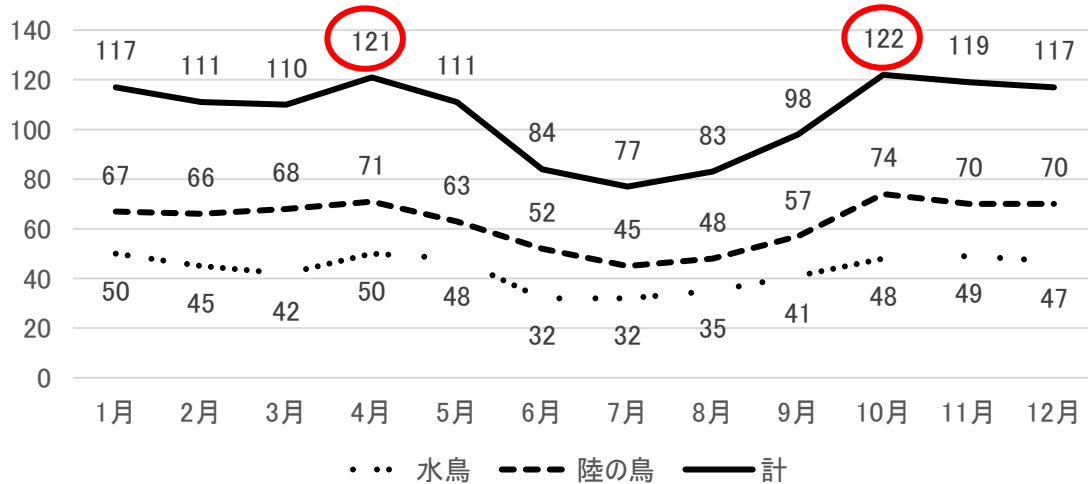


図2 手賀沼周辺の月別野鳥種数(2011年～2020年)



2.3 手賀沼に来る野鳥の種は変化している

我孫子野鳥を守る会のデータによると最近の10年間毎年観察された野鳥の種数は91種で、その内40年以上の観察年数が有った種は68種（75%）で1/4の種が少しずつ変動しています。

2.1項で述べた最近の10年間で新たに見られた鳥をはじめ、現在何時でも観察されているカワウは、1990年以降毎年観察されるようになりました。冬鳥であるミヤマガラスは2005年に報告され、2010年以降毎年観察されています。

このように手賀沼周辺に訪れる野鳥の種の変遷を観察記録することで、野鳥を通して地域の環境の変化を感じました。

3. 参考資料

- ・ 我孫子の鳥図鑑
（我孫子市鳥の博物館）
- ・ 手賀沼の鳥Ⅳ 一人と鳥の共存をめざしてー
（我孫子野鳥を守る会）（2022年3月）
- ・ 我孫子野鳥を守る会鳥便りデータベース
（我孫子野鳥を守る会）



環境レンジャー活動報告(ネイチャーイン) 手賀沼冬鳥観察会

（環境レンジャー 野倉 元雄）

毎年恒例の我孫子野鳥を守る会との共催による手賀沼冬鳥観察会を1/28(日)に実施しました。今年は船上方式から遊歩道を歩く方式に変更して開催されました。

当日の天候は曇りながら風の弱い状態で探鳥には良い状態でした。我孫子市新春マラソンの開催に伴う交通規制があつて参加者の集まりが懸念されましたが、参加者は18名で我孫子野鳥を守る会8名、環境レンジャー5名、手賀沼課1名の合計32名での探鳥となりました。用意した双眼鏡の貸出は6台に留まり、参加者の皆さんの意欲の高さが窺われました。ルートは水の館前から滝下広場での折り返し2時間程度の計画です。

スタート直後にツグミを観察したことから始まり、カッパ像の見晴台からは橋の上にセグロカモメを橋の下、上沼側にオカヨシガモを観察しました。続けて釣り堀近くではゴイサギとカワセミを、桜の広場付近ではキジの他にコブハクチョウと並ぶオオヒシクイを観察できました。これには一同が大喜びしました。市民農園近くの植生帯では外来植物が水面を覆うなかにクイナが現れました。通常観察できる鳥類も次々と出現し、それぞれ観察していると予定時間を超過するため、植生帯付近で折り返し戻ることにしたのですが、帰路でエナガの群れに出会い子どもたちも目を輝かせ喜んでくれました。

探鳥終了後は観察した結果を確認する鳥合わせをおこないましたところ47種類の観察ができていました。野鳥の会の皆様のご案内とご指導をいただき大きな成果となりました。その後、野鳥ビンゴを行い、景品の野鳥カードと野鳥缶バッチのプレゼントに参加者は大満足の様子で解散後も会員としばらく会話を続けられる参加者もいました。

〈主な観察した鳥〉

キジ、コブハクチョウ、オオタカ、カワセミ、オオヒシクイ、シメ、アオジ、シロハラ、マガモ等カモ科7種、カイツブリ科3種、サギ科4種、クイナ科3種、その他合わせて合計46種、番外1種

環境レンジャー活動報告

Enjoy手賀沼2024！「生きものぬり絵をしよう」手賀沼冬鳥観察会

（環境レンジャー 野倉 元雄）

5/12(日)薄日のさすさわやかなお天気ながら風の強い日となりました。手賀沼親水広場には朝から多くの市民が集まり始めていました。開始時刻の午前9時の前から私たちの「生きものぬり絵をしよう」のブースには子どもたちが立ち寄り、ぬり絵を楽しみはじめました。ぬり絵の題材は野鳥7種、昆虫8種です。子供たちに自然の生きもののぬり絵をとおして自然環境に親しんでもらいたいとの願いです。

来場してくれたのは男女を問わず何人かの友達のグループや、保護者と一緒の子ども、年齢は幼稚園以下の子どもから中学生まで、熟年のご夫婦などさまざまです。最初に自分の描きたい題材を選び、用意されている色鉛筆で自由に描きます。描き方もさまざまです。手早くサッと全体に色付けする子や、見本の絵をじっくり見て色鉛筆を慎重に選ぶ子もいます。同系色の色鉛筆で重ね塗りして複雑な色彩を描く子もいます。どの子も一生懸命描くことで作品の出来上がりには満足しているようです。保護者に見てもらい褒められることで自信がついたことでしょう。出来上がった作品を環境レンジャーに見せることでお土産の野鳥カードがもらえます。野鳥カードは手賀沼にいる多くの野鳥のカードでどれをもらうか迷いながらお気に入りの1枚をもらいます。

来場する子供たちはお昼の時間帯も、終了間近の時間帯まで途切れることなく続きました。実際にぬり絵に取り組んだ参加者人数は274人でした。見守りの保護者を加えると400名をこえることは確実と思われました。対応には長寿大学の5人がサポートにはいっていただき、環境レンジャー6人、手賀沼課職員3人が当たりました。

強風でぬり絵の題材の見本や用紙が頻繁に飛び散ってしまうハプニングはありましたが、事故なく子どもたちに自然に親しんでもらえた1日となりました。

環境レンジャー活動報告(環境学習)

紙飛行機工作と飛行大会

（環境レンジャー 佐藤 美次）

恒例となりました「紙飛行機工作と飛行大会」は、2/17(土)にアビスタ1階ホールで行われました。参加者は7家族で子供9名、大人7名、スタッフとして環境レンジャー5名、手賀沼課職員2名の計23名で実施しました。

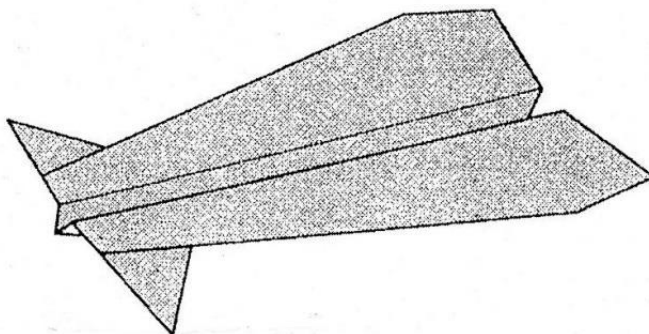
今年の紙飛行機工作はチラシなどを再利用して作る「すいすい飛行機」「すうーと飛ぶ飛行機」「ふわふわ飛行機」「滞空飛行機」とケント紙を使用した「曲技飛行機」と「ホチキス・ペグ」の計6種類の紙飛行機の作成を全員で取り組む工作です。ボードに折り方説明の手順に沿って作成途中の機体を見本として貼り付け、見て分かり易い工夫をしました。早速、手早く折り始める人や折り方の資料をじっくり見比べながら作り上げていく人など皆さん真剣に紙飛行機制作に取り組んでいました。

飛行機を折り上げた人から試し飛行をし、最初から遠く高く飛ぶ飛行機に歓声を上げる人や何度も飛ばして翼などを調整する人の姿がありました。

最後は輪ゴムを使用して飛ばす「ホチキス・ペグ」という飛行機作りです。「ホチキス・ペグ」とは山折り・谷折りして要所をホチキスで止めて作るペーパーグライダーです。みんなで一斉に掛け声とともに飛ばすと天井近くまで飛ぶ飛行機や滑空して向こう端の壁まで飛ぶ飛行機もありました。保護者の人も童心に帰って真剣に紙飛行機と遊んでいたのが印象的でした。自宅に帰って作成した紙飛行機を飛ばし自慢している子どもたちの姿が浮かんできます。皆さんお疲れさまでした。

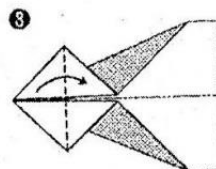


遠くまで飛んで行け！ボクの飛行機、わたしの飛行機(^^)／

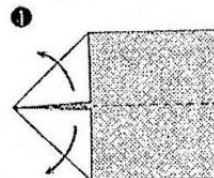


ふわふわ飛行機

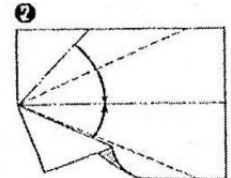
海でイカが泳いでいるように、
ふわふわ飛びます。



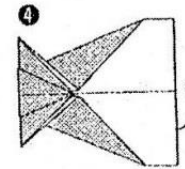
先の四角を半分に折る。



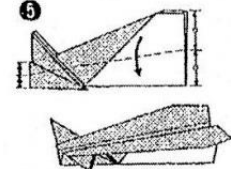
中心線をつけ、
両角を三角に折り、開く。



裏返し、三角の折り目を
中心線に合わせて折る。



中心線を折る。



翼を折る。

環境レンジャー活動報告（ネイチャーイン）

春の湖北の史跡・仏閣巡り

（環境レンジャー 金子 純也）

4/20(土)午前9時半、湖北駅改札口前に参加者6名、あびこガイドクラブより講師の新井様、山口様、岡部様3名とレンジャー6名の計15名が集まりました。

寒暖の変化が大きい日々が続く中で懸念された天候も、当日は穏やかな日とで散策の期待が膨らみます。駅前の広場に移動して自己紹介の後、早速、目の前にある湖北駅ホームに残る置台に注目、専用列車まで運行していた“行商用の鉄製荷台”との湖北全盛時代の説明を皮切りに湖北巡りはスタートしました。

成田線沿いに歩いて程なく「中里薬師堂」に到着、薬師三尊・十二神将像を初めとしてお堂の周りには我孫子市内から集められた石仏の安住場所となっています。傍らに建つ「薬師会館」は中里出身の「マツモトキヨシ」創業者：松本清氏の寄贈になるものです。

“中里通り”に入り、星野家の長屋門が目の前に登場、明治中期の総檜造りの荘厳な二階建て黒塗門、今では貴重な“海鼠(なまこ)壁”など我孫子市内で二カ所しか残っていない往時を残す貴重建築の一つです。重厚な長屋門の驚きが止まぬうちに中野本家の四脚門に到着、12代目治四郎による明治初期に珍しい赤煉瓦塀を見ることができます。

中里通りから国道356号へ出ると、明治から江戸時代へ時を遡り、徳川家康の命により街道の両側一里ごとに築かれた日本橋から10番目となる「一里塚」跡へ到着。塚上に植樹された榎が供する日陰から旅人の疲れを癒す往時を偲ぶことができます。

国道を渡り、現代の一里塚である湖北地区公民館（コホミン）に至ります。同敷地内にある温情溢れる献身的診療活動で多くの人から敬慕された田口静先生の胸像を見学し、コホミンでしばし休憩。休憩後は、湖北小学校内に移築された太平洋戦争中の手賀沼殉難教育者の碑を経て、一気に平安時代の史跡に向かいます、平将門の足跡が残る日秀観音寺、将門神社に歩を進めました。

将門調伏(ちょうぶく)を祈願した成田山に顔を背ける「首まがり地蔵」、現代でも成田山詣をしない将門びいき、将門の井戸等、湖北地区に今なお色濃く残る将門の影響力の大きさを感じました。散策の最後は所どころに残る鎌倉時代の「かまくらみち」跡を見送りながら、県指定史跡である古墳時代の「相馬郡衙(ぐんが)正倉跡」へ辿り着きました。

古の一大物流拠点として近くの入江からの船の往来、人馬の喧騒をイメージできる掘立柱跡や銀銭、炭化米など多くの発掘品が見つかるそうです。

今では福島県の代表的地名となっている『相馬』の由来は湖北の“相馬郡”が発祥との説明に“初めて知った！”など参加者から感嘆の声が多く発せられた湖北巡りでした。



初企画の湖北の史跡・仏閣巡り！

環境レンジャーのこれからの予定

詳しくは「広報あびこ」を見てね！

お申し込み、お問い合わせは、我孫子市手賀沼課（04-7185-1484（直通））まで

令和7年1月26日（日）
ネイチャーイン
『手賀沼冬鳥観察会』



場所：手賀沼親水広場及び遊歩道

手賀沼周辺に暮らす水鳥を観察しよう。かわいいカモ類やかっこいいミサゴにあえるかな？

令和6年10月20日（日）
あびこ子どもまつり
『手賀沼賞エコ・子ども教室』



時間：10:00～15:00

場所：アビスタ

手賀沼賞を受賞した作品から5作品を選びました。作者の口頭発表とパネル展示・クイズで手賀沼の自然・環境・エコロジーを学びます。

令和6年11月16日（土）
ネイチャーイン
『秋の谷津の自然観察』



時間：9:30～12:00

場所：谷津ミュージアム

岡発戸・都部の谷津ミュージアムを散策し、秋の草花、木の実、野鳥などの自然を観察しませんか。

令和6年12月7日（土）
環境学習
『鳥凧作りと凧あげ大会』



時間：9:30～12:00

場所：手賀沼親水広場・水の館

鳥凧のしくみを知り、自分だけの鳥凧を作ろう！最後はみんなで凧揚げ大会。誰が一番高く上がるかな？



《編集後記》

アサガオとホオズキの苗がすくすく成長しています。この時期の植物たちは本当にたくましく目が離せません。環境レンジャーのイベントにも、ぜひご参加ください！

『たまっけ』へのご意見、ご感想お待ちしております。

（環境レンジャー 継岡 伸彦）